

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2013年11月★第105号

秋の森で思いっきり遊ぼう！！

「秋の森で遊ぼう！ in 川崎町貸森林」

日 程：10月19日（土）

講 師：宮城県地球温暖化防止活動推進員グループ「エコ・森林」

参加者：22名

※宮城県「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」で実施

毎回好評の「森で遊ぼう！」講座。今回も3歳から11歳までの子どもと大人が参加し、散策・ターザンロープ遊び、薪割り、お焼き作りなど子どもも大人も思いっきり楽しみました！

秋の植物に興味津々。
「これなあに〜？」の連続です。



クラフトのクリスマスリース作りは大人にも大人気



手作りツリーハウスの前で記念撮影！

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。
1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとらして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体が作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することによりボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1. 秋の森で思いっきり遊ぼう！！
- P2. 「MELONフェスタ」好評でした！
- P3. 各部会・プロジェクト受賞者のご紹介
- P4. MELONcafe プチ講座
かんきょう読み聞かせ
「おじいさんのランブー文明開化が映したものだ」
- P5. 協同組合からのお知らせ
50人リレートーク 大橋信彦さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7. 薪ストーブ・ペレットストーブの助成制度について要望書提出
仙臺農塾～生き物と共に「当たり前」に育つおいしい食～
- P8. WEBサイトがリニューアル！、イベント一覧、編集後記

新たな形式で開催した会員と市民のつどい「MELONフェスタ」好評でした！

9月28日（土）みやぎ生協文化会館 with において、「第18回MELON会員と市民のつどい 設立20周年記念 MELONフェスタ」を開催しました。今回は今までの会員と市民のつどいを見直し、来場者と役員・会員が相互に交流できるイベントをめざしました。

午前中はスタジオにおいてチェリスト・塚野淳一氏の演奏と、映像によるMELON第2期活動紹介を行いました。午後からは2階会議室に会場を移し、ランチタイムセッションと名付けた会員企業有志のステージでの環境活動PR、大道芸人・源吾朗氏による「ガマの油売り口上ショー」、MELONの部会・プロジェクトそれぞれが選んだ活動の表彰式を行いました。

また、会場内には各部会・プロジェクトごとのテーブルを設置し来場者がそこでくつろぎながら活動の内容を聞けるスペースを設けるとともに、企業・団体会員の有志によるブース出展も行いました。その他にも食の部屋を設け、参加者全員におにぎりセットと味噌汁を提供し、



塚野氏の演奏

協力企業による宮城県産のこだわり食材を使用したオードブル、サンマのかば焼き、わかめサラダなど豊富な試食も用意しました。

参加者は120名ほどで、来場いただいたみなさんからは「チェロの演奏が今までと違う雰囲気良かった」「食べ

物がおいしかった」「部会・プロジェクト独自の視点で選んだ表彰式がおもしろかった」などの感想をたくさんいただきました。

終始、楽しい雰囲気の中で参加者が交流でき、初めての試みとしては成功でした。今後、細かい改善点などを見直し来年以後につなげていきたいと思います。

協力団体／ 株式会社加工連、株式会社建築工房零、株式会社サイコー、株式会社仙台水産、株式会社パールライス宮城、株式会社明治、特定非営利活動法人日本の森バイオマスネットワーク、食育NPO「おむすび」、生活協同組合あいコープみやぎ、みやぎ生活協同組合、宮城県農業協同組合中央会



食の部屋で提供したオードブル

部会のテーブルと企業ブースの様子



各部会・プロジェクト受賞者のご紹介

日頃環境活動に励まれ、またMELONの活動にご協力くださっている方に賞賛と感謝を込め、MELONフェスタにて表彰を行いました。各部会・プロジェクト独自の視点で選んだ受賞者のみなさんをご紹介します！

ストップ温暖化センターみやぎ 「Mr. ストップ温暖化賞」「Ms. ストップ温暖化賞」

「Mr. ストップ温暖化賞」
今野勇さん
「Ms. ストップ温暖化賞」
菊地ひろ子さん

宮城県地球温暖化防止活動推進員の活動を通し、地域での草の根的な温暖化防止の取り組みに貢献されています。



情報センター 「さわやか U-25 賞」

環境サークルRNECS
企業会員訪問取材活動において「足で稼ぐ取材」をモットーに軽やかにインタビューをこなし、何よりUnder-25の若い風をMELONに吹き込み、活力を与えてくれています！



水部会「水文化の継承功労賞」

石川寿さん

先人の努力の結晶である福岡大堰、北向堰についての伝承を、積極的に若い世代の人たちに伝えています。



食部会「職業『三浦隆弘』で賞」

三浦隆弘さん

宮城の伝統食材や農業の今を、自分のスタイルで多くの人々に伝え、「全国ブランド『職業・三浦隆弘』」を確立しつつあります！



企業交流部会 「企業の CSR に貢献しているで賞」

株式会社建築工房 零

省エネ、再生可能エネルギーの普及啓発活動をされ、MELONにおいては各種イベントや部会活動に積極的に協力してくださっています。



4R 推進部会「希望で賞」

半田和香さん・藤野恵理子さん

生ごみを堆肥にしてごみを減量化し、環境サークル RNECS の先輩・後輩としてその活動を継承されていることに希望を感じます！



MELON cafe 「MELONcafe の講座アイデア功労賞」

遠藤和子さん

MELONcafe の講座のアイデアをたくさん提案し、部会活動に貢献してくださっています。



自然エネルギー等普及プロジェクト 「水車で地産地消のエネルギーを作ったで賞」

特定非営利活動法人

川崎町の資源をいかす会

エネルギーの地産地消を実現するため、川崎町において水車を製作、設置されました。



みやぎ里山応援団「里山を守る活動賞」

エコ・森林グループ

いつも子どもや市民に対して木に触れ合う機会や体験を提供し、里山の保全に貢献されています。



エコシティ仙台プロデュースプロジェクト 「エコシティ仙台的活動に協力いただいたで賞」

ベガルタ仙台

ボランティアクラブ

エコシティ仙台的活動当初からご協力くださり、エコステーションやエコ活動に貢献されています。



受賞者には長谷川理事長から賞状と角田の梨が手渡され、とても和やかであたたかな場になりました。今後も一緒に環境保全活動に尽力していきたいと思います。ありがとうございました！



MELONcafe

9月21日（土） 13：30～14：30
「ご試食！米粉で簡単♪お月見団子作り」

10月10日（木）13：30～14：30
「着物をリメイク★ほおづきの飾り置き作り」

9月は、中秋の名月（9月19日）に合わせてお月見団子を作りました。米粉はしっとりもちもちとした食感と自然な甘みが特徴です。小麦粉の代用として、お菓子をはじめ、パン、ピザや麺類などさまざまな料理にアレンジできます。地場の米粉を購入することにより、輸送時に発生するCO₂の削減にもなります。また、日本の食卓



14名の参加者と月見団子をつくりました

が洋食が多くなってくるとともに、食料自給率が約40%となってきました。普段のお買い物で国産の食料を意識して購入することにより、食料自給率の向上に努めましょう！

10月は着なくなった着

物を再利用して、「ほおづきの飾り置き作り」の講座を行いました。仙台市で衣服が年間どれくらい排出しているか学んでから開始。参加者は楽しんで作成していました。

また、9～10月には節電対策として出張MELONcafe講座「リメイクキャンドル作り」を仙台市内の生田小学校など3か所で行いました。冬至と夏至の夜2時間電気を消して過ごす「100万人のキャンドルナイト」を話題として、無理なく行える節電を紹介。当日使用したキャンドルは式場などで不要になったロウソクを使用し、ゴミの減量につなげました。

11月は読書の秋にぴったりの古着を使用した「ブックカバー作り」を行います。みなさんも参加して世界でたった一つのブックカバーを作りませんか？



かわいいリメイクキャンドルがたくさんできました！

今後のMELONcafe プチ講座

11月23日（土）13：30～14：30
「古着をリメイク★ブックカバー作り」

12月14日（土）13：30～15：30
「古着をリメイク★クリスマスリース作り」



おじいさんのランプ ー文明開化の光ー

童話作家の新美南吉は30才という若さでなくなるのですが、その前年の昭和17年、病気の進行とたたかいながら、童話集「おじいさんのランプ」を編むのです。「おじいさんのランプー新美南吉童話集ー」（赤羽末吉・鈴木義治 絵、1965年11月、岩波書店）から同名の話を読んでみましょう。

いままで、「あんどん」しか見たことのなかった巳之助（みのすけ）は、となり町で初めてランプを見ました。そのまばゆいこと。「またある家では、女の子が、ランプの光の下に白く光る貝がらをちらしておはじきをしていた。」と、『文明開化の光』で人びとの生活がまばゆいばかりに映しだされます。巳之助はランプを売る商売を始めました。「暗い家に、巳之助は文明開化のあかるい火を一つ一つともしていくような気がした。」のです。

しかし、時代が行き、時が変わります。巳之助はふた

たび訪れたとなり町で、自分がこれまで売ってきたランプが隅に追いやられているのを見ました。「光は家の中にありあまって、道の上にまでこぼれていった。」・・・電灯がひかれていたのです。

ついに巳之助は、自分の店にあったたくさんのランプを池の岸にある木に吊し、池の反対側から、それをめがけてつぎつぎに石ころを投げつけます。文明の時代の移り変わりによって、個々の人びとの努力など一瞬にして砕け散っていく様子を、まばゆいランプが一つ一つはじけ飛んでいくという舞台設定の中で象徴的に描き出しているとも読み取れます。

物語は『つくりもの』ですから、わたしたちが学校で習う歴史のようではありません。しかし、歴史の流れの中で生活をする一人ひとりの細部を描くことによって人間を、人間と歴史の関係をえがくこともできます。「もっと、もっと」とエネルギーを使っていく文明の下で何が起きているのかを想像していく態度も必要なのでしょう。

ランプの商売が軌道にのったころ、巳之助はランプの明かりで『何をしなければいけないか』を掴み、文字を勉強します。『本が読めて初めて文明開化』だと巳之助は思ったのです。エネルギーをつかって何をするのか、昭和17年に南吉が童話に残した課題は解けたのでしょうか。



各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

冬編

～みやぎ生活協同組合～ **くらし見直し チャレンジ**

暖房費がかさむ冬こそ、省エネの効果が実感できる季節です。効果的な暖房術や温かく過ごす工夫で、「ムリなくムダなくココチよく」今年の冬の省エネに取り組みましょう。

みやぎ生協では「原子力発電に対するみやぎ生協の見解」を公表し、原子力発電を全て廃止、再生可能エネルギーを中心とした政策に転換することを求めています。そのためには自らも事業とくらしを見直し省電力社会への転換をすすめています。

チャレンジ期間：2013年11月1日～2014年1月末日

①チャレンジしてみましょう！

家族で話し合って省エネにとりくみます。

②比べてみましょう！

省エネした結果を検針票などの数字で確かめます。

③シートに記入・提出！

感じたこと、わかったことなどを記入して提出します。

省エネのヒント満載のチャレンジシートをご希望の方にお届けします。WEBからも参加できます。

みやぎ生協 環境 → 検索

*お寄せいただいた中から30名様に「目からウロコ賞」を進呈します。

申し込み・連絡先

みやぎ生協生活文化部くらしの活動事務局

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2

TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663 メール：sn.mkankyok@todock.jp



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク

第48人目の執筆者

大橋信彦さん

(ゆりりん愛護会代表)



宮城県名取市の閑上海岸に「ゆりりんの森」が生まれたのは、平成16年6月のことでした。不審火がもとで焼け野原になっていた海岸林の一面を復元しようと、地域の人たちが宮城県にはたらきかけて実現しました。県の林業振興部ではユニークな海岸の学習林をつくろうと、クロマツに加えて7種類の樹木の苗1300本を用意しました。植林に参加したのは地域内の小中学校の児童生徒と先生、それに地域住民と行政、教育機関のみなさんでした。多くの人の協力の下で苗は順調に成長し、花が咲き、珍しい野鳥の姿も見られるようになりました。そして、海岸の学習林には“ゆりりん”という愛称がついたのです。そこではシーズンごとに枝落としや松葉かきなどの整備作業が行われ、作業の後には森の教室をはじめ、音楽会やキノコ鍋などの催しも開催されるようになりました。地域の人みんなが「ゆりりんの森」の成長を喜び

あいました。

そんな時、突然に東日本大震災は起きたのです。まちはその姿を留めず、海岸林は壊滅状態となり、ゆりりん愛護会の何人かも帰らぬ人となりました。しかし、悲しい時を超えてわたしたちは行動を起こしました。生き残った「ゆりりんの森」のマツカサを京都の府立緑化センターに送り、その種子から苗を育ててもらったのです。そして今年4月、里帰りした幼いマツの苗をボランティアの手で市内高館の畑に植えました。いつの日か、大きくなったマツの子どもたちは、ふるさとの閑上海岸で訪れる人を優しく迎えてくれることでしょう。

◇連絡先

ゆりりん愛護会代表：大橋信彦

〒981-1232 名取市大手町4-18-2 A-103

Tel：090-7066-6014

E-mail：n-ohashi@swan.ocn.ne.jp

… 次号執筆者紹介 …

岡崎美穂子さん

(「名取市自然と地域とのふれあい活動推進委員会」委員)



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.62

オリジナルの啓発ツール作成中！



講師の西直人さん

推進員対象の実践研修会として、イベントでの実践に向けた温暖化防止啓発ツール作りを進めています。8月・10月の2回、講師に環境コミュニケーションプランナーの西直人さんを招き研修会を行いました。

「理解してもらえたかよく分からない」「こちらが話してばかりになっている」「内容がネットで調べれば分かることばかり」「一般市民向けの企画」そんな経験はありませんか？

「言った・伝えた＝伝わる・理解してもらえる」ではありません。それを体験するワークショップから研修会は始まりました。2人が背中合わせになり、ひとりは映し出された図形を見て、相手に言葉だけで伝え、聞き手は何も質問せずに聞いた通りに紙に図形を作っていきます。双方後ろを向いても聞き返してもいいけません。その結果、写し出された図形通りにできたペアはありませんでした。伝え方の工夫と、相手の理解度の確認が大切なのです。「言ったことは忘れられる見たことはたまに思い出す 体験したことは理解してもらえる 発見したことは身につく」つまり、「体験」と「発見」

を与える仕掛けがとても大切なのです。

さまざまなアドバイスをいただきながら、推進員の3つのチームがライフスタイルを見直すツールを現在企画しています。今後の完成をご期待ください！



「伝える」「伝わる」を体験するワークショップ

推進員だより No.11

楽しみながら活動を！

稲田陽一さん、江戸亨さん、菅野喜美恵さん、鈴木茂さん、千葉きえ子さん、長井庄一さん、松林正信さん

9月22日（日）に七ヶ浜国際村にて開催された「しちがはま環境フェスタ」で、推進員グループのひとつ「みどりむし」のみなさんがブース出展しました。当日は、7名の推進員さんが参加し、独自で作成した「エコな生活2択クイズ」や「温暖化の影響による農作物の産地の変化のパネル」など、子ども向けのさまざまな企画内容を出展。

来場した子どもたちも楽しみながらクイズに挑戦している様子でしたが、みどりむしの皆さんもとても楽しそうでした！自ら楽しんでいるからこそ、相手にも楽しみが伝わるのかも知れませんか。今後の活動にも期待しています！



「みどりむし」のみなさん

IPCC第5次報告書発表

～人間活動が原因の可能性「極めて高い」～

9月27日、地球温暖化に関する科学的分析や予測をまとめる国連組織「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の第1作業部会（気候変化などの評価）は、新たな評価報告書を発表しました。2007年の第4次報告書以来、6年ぶりの改定となった今回の第5次報告書では、人間の活動が温暖化の主要な原因である可能性を「極めて高い（95%以上）」とし、第4次報告書の「非常に高い（90%以上）」より表現を強めました。

2014年3月には横浜市でIPCC総会が開かれ、第2作業部会（気候変化による自然や人類の環境への影響などの評価）の報告書が発表される予定です。国際交渉にも強い影響力を持つ報告書だけに、今後どのような報告がなされるのか注目していきたいです。

「県内全地域で薪ストーブ、ペレットストーブの購入に 助成制度を設ける要請」を宮城県へ提出

宮城県の森林資源をエネルギーとして活用拡大することで森林の保全や温暖化防止などをめざし、10月31日に「県内全地域で薪ストーブ、ペレットストーブの購入に助成制度を設ける要請」を宮城県農林水産部林業振興課、宮城県環境生活部再生可能エネルギー室に提出しました。

宮城県の「平成25年度みやぎグリーン戦略プラン（平成25年度版）」で、モデル地域でのペレットストーブの助成事業はありますが、薪ストーブは対象ではありません。この助成制度では不十分と考え、MELONの「自然エネルギー等普及プロジェクト」と「みやぎ里山応援団」の各部会で検討し、今回の要請の運びとなりました。この要請は下記の内容を主旨としています。



- (1)「モデル地域でのペレットストーブ購入への助成」について、新たに「薪ストーブ購入への助成」を加えること。
- (2)「モデル地域での事業」から「県内全地域での事業」に拡大すること。

<薪ストーブ、ペレットストーブを使用することのメリット>

- ①森林は成長過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を排出しているため燃やしても大気中の二酸化炭素を増加させない。
- ②薪などを使うことで化石燃料の使用が削減され、その機器から排出される二酸化炭素は削減される。(※注1)
- ③木質バイオマス燃料（薪・ペレット）は地元の雇用を生みだし、石油に比べて海外の情勢に左右されない安定性があり、輸送時の環境負荷も少ない。
- ④電源喪失時にも暖をとれ、機種によっては調理や給湯に使うことができる。
- ⑤林地残材の活用により一層森林整備が進み、森林のCO₂吸収が促進される。

助成制度が導入されることにより、少しでも多くの家庭に自然エネルギー、独立したエネルギーが普及されることを望みます。

※注1 灯油ファンヒーターから薪ストーブへ変えた場合のCO₂削減効果は1台につき3.030t-CO₂/年（2009年東北大学大学院環境科学研究科 池上真紀・新妻弘明試算による）であり、仮に500世帯に補助金制度を導入した場合、1515t-CO₂の効果が得られます。



大人の食育プロジェクト『仙臺農塾』vol.2始動！ 生き物と共に「当たり前」に育つおいしい食

8月31日（土）プチ体験「突撃！農家の昼ごはん～仙臺の夏の味覚・ずんだ餅」

ゲスト：三浦隆弘さん（名取市農家）

場 所：三浦隆弘さんの畑

10月9日（水）第1回「麹と共に250年～老舗の味噌・醤油づくり～」

ゲスト：鎌田雅敬さん（鎌田醤油株式会社）

場 所：旬菜こころ

仙臺の郷土料理「ずんだ餅」、作ったことはありますか？枝豆を茹でて薄皮を取り、すり鉢ですりつぶしたら味を調え、お餅にあえていただきます。実際作ると大変で、一粒一粒薄皮を取る作業は、到底一人ではできません。枝豆は8月中旬のお盆ごろからが旬。お盆に集まった親戚みんなで作るずんだ餅が、お供えものとして、おもてなし料理として親しまれたのです。苦労の分、手作りのずんだは枝豆本来の味で美味しい！それは三浦隆弘さんの枝豆が無農薬で美味しいから。虫が入りやすい枝豆ですが「特に手間はかけてないよ」とのこと。その秘訣は、畑の周りに田んぼがあり、虫を食べるクモやカエルなど生き物がたくさんいるからでした。

宮城県産の大豆と小麦から国産丸大豆醤油を作る鎌田醤油

の鎌田雅敬さんも「こだわっているわけじゃない。当たり前にもじめには作っているだけ。」との言葉。宮城は大豆の作付面積第2位を誇りますが、大豆と小麦の原料の状態から製造している蔵元は希なのだそうです。また、私たちは乳酸菌・納豆菌・カビ菌などたくさんの微生物と共に暮らしていることも教えてくれました。蔵元によって、家によって、地域によって菌の勢力も違う。日本の国菌は「麹菌」で、菌と原材料の違いから「醤油は地域の個性」との言葉が印象的でした。



10月ゲストの鎌田雅敬さんと醤油糀

WEBサイトがリニューアル！ ～明るく・見やすく・わかりやすく～

10月からWEBサイトが新しくなり、どこにどんな情報があるのか、わかりやすくなりました！1番の見どころは事務局ブログ。新着情報としてトップ画面のど真ん中にあります。MELONの活動を支える部会・プロジェクトの紹介も一新！「活動内容紹介」をぜひご覧ください。会員の方はどなたでも部会活動に参加できます。見学からでも大歓迎です。イベント情報はカレンダーとサイトメニューの両方からチェックできます。また、出版・販売物に関して気になるものがあれば事務局までお問い合わせください。今後さらにMELONの活動や環境に関する有益な情報を発信していきます！

URLはこちら

<http://www.melon.or.jp/melon/>



編集後記

- MELON フェスタの「ガマの油売り口上」懐かしかったです。鏡の前に四六のガマを置くとタラリタラリと油を流すのでエコだってお話にも何故かうなすいてしまいましたよ。(木城)
- 最近、物忘れが以前に増して激しくなりました。近くの字も読みにくい。気持ちと体型は若いときとあまり変わらずキープしているつもりなのですが、やはり年には勝てないです(笑)(小林)
- ハイブリッドカーの燃費の良さにはびっくり！先日、ドライブに出掛けたら1リットル当り25キロ以上走ることが出来ました。これからも記録更新にチャレンジです。(三浦)
- 冬は明るい星が多いので夜空がきれいですね。夜の節電に取り組めば、明かりが減ってよりたくさん星が見られるかもしれません。(高橋)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

11/10(日)	「冬のぬくぬく生活情報室」にブース出展
11/11(月)	MELON 環境市民講座「宮城県産材を使用した地球環境に優しい住宅のシンポジウム」開催
11/12(火)	MELONcafe 企画部 例会
11/13(水)	4R 推進部会 例会
11/14(木)	MELON 環境市民講座 環境施設見学会「家庭ごみのゆくえを見てみよう」開催
11/16(土)	「じぇじぇ！大学生が見た『国際会議のウラ側』入門ワークショップ」開催
11/17(日)	「再生可能エネルギー見学会(川崎町)」開催
11/22(金)	「廃棄物減量等推進員東北交流大会」開催
11/23(土)	MELONcafe ブチ講座「古着をリメイク★ブックカバーづくり」開催
12/1(日)	「環境フォーラムせんだい2013」にブース出展
12/9(月)	「Rio+20 セミナー(仮)」開催
12/12(木)	情報センター 例会
12/14(土)	MELONcafe ブチ講座「古着をリメイク★クリスマスリースづくり」開催
12/21(土)～22(日)	「渡り鳥と歴史探訪バスツアー(仮)」開催
1/15(水)	仙臺農塾『料理人に教わる本当の“うま味”～料理の味は出汁から始まる～』開催
1/19(日)	「冬のキコリ体験会(仮)」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

784 名

法人 81

任意団体 13

個人 690

2013 年 10 月 8 日現在



ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <http://www.melon.or.jp/melon/>



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。